

各位

新春の候、平素は児童館事業にご理解ご協力誠にありがとうございます。

新たな年を迎え願うことは、世界中の人々が平和で心穏やかに過ごせますように...そして子ども達が身体も心も健やかに過ごせますように.....

長引くコロナ禍の影響がいろんなところに出てきているようですが、子どもの遊びにも影響がありました。

「高学年でドッチボールが出来ない!?!...」から始まった今年度の学童っ子たち。やる機会が失われたことが大きかったと思いますが、私が俺がと自分の気持ちをぶつけることは出来ても、相手の気持ちに寄り添えない...。だからぶつかることが何と多かつたこと。でも、「みんながドッチボールを楽しんで欲しい」という職員目標は崩すことなく、毎日毎日関わり続けてくれました。話し合いもした。ロールプレイングをして相手の気持ちにも寄り添った。

そして、先日右京区児童館で開催した島津アリーナでのドッチボール大会で低学年は準優勝、高学年は、入賞は逃しましたが、一勝した試合では十人全員が残ったという快挙を成し遂げてくれました。

高学年はとても悔しい思いをしました。強い子がいたので必ず勝つと信じて臨んだ試合でしたが、試合に負けるごとに口数も少なくなり...。連敗が続いたので一ばをかけに行きました。さっきのはどうのこうの...と出来なかつたことの言い訳を言い合っていました。そこで、「終わった試合のことはもういい!あと一試合どんな試合にしたいの?」「今までみんなが頑張ってきたんじゃないの?敗因は何?」「私はみんなが焦っているように見える。自分が手柄立てたいから、すぐボールに手を出して当てられてしまっている」「誰と競争しているの?自分が何人当てたかじゃなく、チームとして自分は今どうしたらいいの?」こんな話をしたように思います.....

その後の試合が十人残った唯一の一勝です。みんなの高揚した顔!涙が出ました。勝つことだけが全てではないですが、この取り組みを通して子どもの成長が見られたのです。低学年は高学年がずつとぶつかっているのを見ていたお陰で(笑)メンバーをその気にさせる...優しい頼もしいリーダーが生まれていました。高学年の一人がポツリと言...「俺も低学年からやりたかった...」。本当にね.....

令和五年二・三月号のお便りに添えて

社会福祉法人 積慶園

京都市嵯峨野児童館

館長 飯吉昌子